

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270104500		
法人名	有限会社 ゆう		
事業所名	グループホーム GARDEN-HOUSE		
所在地	長崎県長崎宝栄町4-19		
自己評価作成日	令和7年3月1日	評価結果市町村受理日	令和7年7月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和 7年 3月 25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

感染症などの影響で、制限されることが多くなっている中でも、出来るだけ出かけたり、ホームの中の楽しみを増やす努力をしています。ここに合ったレクリエーションや、畑や花壇を作ったり、季節を感じながら楽しく生活していけるように努めています。出来なくなった事ではなく、今出来る事を見つけて、笑顔で過ごせるように努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、開発が進む浦上川沿いの利便性の良い立地に位置している。理念に“笑顔”を掲げ、管理者は、入居者が笑顔で暮らすことができるためには、職員自身が心から楽しく対応すべきであると考えており、“働きがいのある明るい職場”を目指している。また、経営理念“たえまない質の改善”は理念と共に職員へ浸透しており、職員は日常的に改善策を提案し事業所は反映して改善している。入居者は、散歩時にコンビニエンスストアに立ち寄っておやつを購入したり、競技場のベンチで一息ついたり、日常的に地域に出掛けている。管理者は、自治会青年部長や消防団員として地域活動に参加しており、運営推進会議を利用し地域住民に避難訓練の様子を見てもらう等取り組んでいる。プランター菜園の世話や趣味を継続した暮らしに理念の具現化が確認できる事業所である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「笑顔」とし、別に経営理念も掲げており、毎朝唱和し実践につなげている。	事業所理念である“笑顔”の他に“たえない質の改善”、“働きがいのある明るい職場”など4つの経営理念を掲げている。入居者が笑顔で暮らすには、職員自身が心から楽しんで働くことが肝要だと、管理者はワークライフ両面で職員を支えるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との関りは、自治会には入っているが、感染症などの関係で、以前参加していた地域の祭りなどには参加出来ていない。	管理者が自治会青年部長として会合に出席し、地域の情報を得ている。感染症対策から地域の祭りに参加することは自粛しているが、焼き鳥を買ってきて雰囲気を楽しんでいる。散歩がてら買い物したり、競技場でおやつを食べる際に出会った人と会話するなど日常的な関わりがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方等が訪ねてくることがあり、グループホームの説明や、相談を受けることがあり、理解や支援の方法などを伝えている。散歩の時などに話をし、交流しながら、理解を深めて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面で行っていたが、対面での開催になり、開催日に感染症などで日程が組めない事があり開催日程などで困っている。開催時は互いに意見交換し、サービス向上に活かしている。	令和6年度は3回目までは書面で開催し、事業所の活動報告を郵送して委員から意見感想等を得ている。4回目は事業所にて避難訓練の様子を見てもらおう等行っている。今年度中に6回の開催を予定しているが、議事録の日付や参加者等の不記載、双方向の協議は未だである。	家族、行政担当者、地域住民からの意見聴取、信頼関係の構築のために、内容の工夫、議事録整備、家族への周知など、運営推進会議の活性化に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の方や、地域包括センターの方と連携を取って、協力関係を築いている。	介護相談員を受け入れている。利用料改訂の際には、事業所と担当課、家族等で今後の対応を協議している。また、読書好きな入居者のために包括支援センターから本を差し入れてもらったことをきっかけに交流が続いている。感染症対策や技能実習生受入れの県主催研修を受講している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実施している。玄関の施錠は、基本夜間帯の防犯での施錠となっている。	2ヶ月ごとに適正化委員会を開催し、年2回の研修を実施しており、全職員でスピーチロック等も含めた現状を振り返り、改善策を検討している。赤外線センサー設置時には家族から了解を得ている。玄関施錠は夜間のみ、年1回は警察官による現状確認が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を実施し、互いに気を付けて声掛けするように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人や、保佐人が付いている方もおり、又利用されていない方も、金銭管理がご家族で厳しくなられた方などは、社協のサービス等を紹介し、色々なサービスが受けられるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に十分話し、ご家族からの希望や、疑問点を解消し契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の意見などは、管理者や職員には常にご家族様からの意見を聞き取り、反映している。又、外部の相談窓口等も契約時にお知らせしている。	苦情相談窓口は明文化し説明している。入居者の様子は面会時に伝えており、LINEで行事の写真や動画を発信している。また、運営推進会議案内を送付後に届いているか確認の電話をかけた際に、家族の要望や意見を聞き取っている。ただし、運営推進会議議事録を送付し、理解を図っているが、家族の理解は得られていない。	面会制限がある中での運営推進会議の対面会議開催に不安と不満があり、家族の出席が得られない状況である。丁寧な説明と家族の意見や要望を汲み取り、対策を講じて信頼関係を構築することが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、意見を聞き入れ、反映させている。	職員会議は必要時に臨時に開催しており、職員は朝夕の申し送り時や日常業務の中で意見提案を伝え、また、タブレットで職員同士の意見交換を行い情報を共有している。管理者は気になる職員には個人面談し聞き取っている。職員の定着も良く、職員間のコミュニケーションも良い。介助し易い車椅子の購入など職員の提案の反映例は多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握を個別に行い、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のレベルを判断し、認知症に対する研修などを実施したりしている。事業所内で先輩社員より指導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が交流の機会を作って、ネットワークづくりをし、サービスの向上に取り組んでいる。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談から始まり、出来るだけ入居前にも対面での話を出来るよう取り組み、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より、ご家族に不安な事などは聞き取りを行っており、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでは他の介護サービスは使えないが、他の医療サービスや、地域サービスも利用できるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は協力いただき、出来ない事を補う介護を実施しており、関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方の希望や、ホームからのご家族様へのお願い等で、共に支援していく関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外の面会も出来ており、関係が途切れない様に支援に努めている。	面会には家族の他、友人や定期的に訪れている自宅近所の住人もいる。子どもや孫と文通している入居者はポストまで投函に行ったり、誕生日に3姉妹で馴染みのカフェへ出掛けて祝っている。また、編み物や読書、縫物や書道、土いじりなど本人の在宅時代の趣味や生活習慣の継続支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、関わり合いながら、支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用後も、退去されたご家族から連絡頂いたり、都度相談や支援できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望を把握し、出来るだけ思いに反った暮らしが出来るように努めている。困難な方も、表情や、しぐさなどで本人本位を検討している。	職員は入居者の笑顔を引き出すために、日々話し掛け、思いや意向を聴き取っている。コミュニケーションが困難な時は、暮らしの中でイキイキとした表情や仕草を基に推測している。それぞれの生活リズムを把握し、起床に合わせて朝食を提供しており、自由な過ごし方が窺える。聞き取った情報は共有して介護計画へ繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、これまでの生活歴など聞き取りし、入居後もコミュニケーションを取りながら、聞き取りし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に応じた過ごし方や、心身状態、有する力などの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その時の課題は、毎日の申し送り時に話し合い、ご家族や、必要な関係者がいる場合は意見を求めている。それを反映し計画を立てている。	入居時に本人・家族と面談し、情報を収集して暫定プラン設定から本プランへの移行となる。6ヶ月の短期、1年間の長期目標を設定し、3ヶ月毎にユニットでのモニタリング会議を開催している。科学的介護情報システムLIFEに登録しており、毎月の課題抽出と家族の要望を鑑みてプランを更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきは、記録に残し、職員間で共有しており、計画に反映している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1人ひとりにあったサービス提供に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療サービスのデイケア等を利用したり、訪問マッサージの利用などを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本かかりつけ医は変更せず、以前から通い入れた病院受診を継続している。	在宅時からのかかりつけ医を継続しており、内科4か所のうち2ヶ所は往診に対応している。病院受診は職員が支援している。事業所では、医療サービスデイケアにて理学療法士によるケアを2名の入居者が利用している。夜間緊急時の対応を整備し、職員に周知している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時や、受診時に相談したり、体調不良時や、精神的な変化などある時も、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、計画的な入院の場合は、入院前より情報交換を行い、入院後も安心して治療し、早期退院できるように支援し、病院関係者の方とも関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは基本行っていないが、個々の状況に応じて、ご家族との話し合いや、かかりつけ医などとも連携し、チーム支援できるように取り組んでいる。	家族には、見学時に事業所の方針を伝えており、入居契約時に説明し、確認している。終末期の段階に至ったら、主治医と家族と改めて話し合い、事業所の方針を伝えて対応を検討している。医師の対応、家族の協力など体制を整えば看取りも検討することとしている。ただし、職員研修等は未だである。	看取りを行うか否かに関わらず、人生の最期までを見通し、今できることに精一杯取り組むことを目指し、看取り等研修の実施に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には、初期対応など出来ている。年に1度消防職員より、救命の講習を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	防災訓練は月に1度実施しており、火災・地震・水害等、避難できる方法を訓練している。 火災などを防止する対策もしている。	日中・夜間想定、消防署立会い、自然災害対策を含めた毎月の防災訓練を実施している。運営推進会議を利用して、地域住民や入居者家族に訓練の様子を見てもらい、感想を得ている。大雨の時には潮の干満に合わせて川の水位を確認している。管理者が所属する消防団で非常時には発電機を借用する手立ても講じている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳とプライバシーの確保が取れるような言葉かけや対応に努めている。	入居者への呼び掛けは苗字にさん付けを原則とし、家族からの要望がある時は下の名前にさん付けで呼んでいる。排泄や入浴支援時は羞恥心に配慮し、プライバシー保護を心掛けている。個人情報の取り扱いには写真掲載を含め、同意を得ている。管理者は職員に年長者に対する接遇を指導し、人格を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動するときには、問いかけて自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションなども強制するのではなく、個々に応じたレクリエーションをしたり、その方のペースで気持ちよく過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んでいただいたり、お化粧品をお手伝いしたりし、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りのお手伝いや、食後の食器拭き等、その人が力を発揮し、楽しめるように支援している。	入居者のアレルギーや嗜好に対応し食べやすい形状で提供している。ミキサー食も彩良く盛り付け、食欲を促している。入居者は野菜の皮むきや食器ふきなどできることを手伝っている。季節の行事食には刺身を付け、好評である。誕生日はケーキで祝い、ドライブ中にコンビニでおやつとジュースを購入し目的地で食べ楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や、形態など個々に応じた食事提供をしている。又、水分量も確保できるように、こまめに提供し確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアし、その方に応じたフォローを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導しながらパットやリハビリパンツの使用量を減らし、自立に向けた取り組みをしている。	職員は、排泄チェックを基に入居者の排泄リズムを把握共有しており、声掛け、誘導し、日中はトイレでの座位排泄を基本とした排泄支援を行っている。職員は排泄の自立支援を理解し、日常的に本人が不快にならない支援方法やパッド類について情報を交換し合っている。リハビリパンツから布パンツへの改善事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物や、水分摂取の工夫や、運動や、腹部マッサージなど、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は日中に実施し、夜間帯の入浴の対応は行っていないが、入浴の順番など、希望に沿った支援をしている。	入浴は週3回を基本としており、気分や体調に配慮し、時間や曜日を变えるなど臨機応変に対応している。車椅子の入居者も浴槽に浸っている。入浴出来ないときは、清拭や洗髪などで清潔を保持している。同性介助の希望や好みのシャンプー類の持ち込みに対応するとともに、入浴剤を使用して入浴を楽しむ支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間などは決めておらず、個々のリズムで入眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理はしており、薬が追加や変化があった時には、職員で共有できるように記録に記載し、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割、楽しみは、個別に理解し、対応支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は出来るように支援し、ご家族、ご親族の方とも協力しながら支援している。	花見やドライブなど車椅子の入居者も出掛けている。天気の良い日の散歩やプランター栽培の野菜の手入れは頻繁で、コンビニや商業施設への買い物外出等個別の希望に応じている。千羽鶴を折り、平和公園へ献上に出掛け、観光客と交流を楽しむ機会となっている。また、家族の協力を得て、外食や正月は自宅へ外泊する入居者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、個人で現金を持たれている方もおり、買い物など希望の時には付き添い、自分で買い物できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との電話、テレビ電話、手紙のやり取りは、できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに、入居者の方と作品を作って掲示したり、毎月のカレンダーを製作したりして、生活感、季節感を出せるようにしている。各居室も、入居時はご家族様に出来るだけ使用されている物を置いて頂いている。	併設のキッチンから食事の支度の音や匂いが感じられる家庭的な雰囲気である。リビングルームには、ソファやテーブルを配し、思い思いに寛いでいる。歩行練習を行う入居者が一息つけるようにエレベーターホールにソファを置くなど、入居者の動線に合わせた配慮が確認できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ち込んで頂いて居室作りをしたり、お茶碗やお湯飲みなども使用していたものを持ち込んで頂けるようお願いし、使い慣れたものが生かせるようにしている。	三面鏡や靴箱、冷蔵庫などを持ち込み、自分好みの快適な設えとなっている。面会に訪れた家族の写真を事業所で拡大し、パネルに仕立てて居室に掲げている。また、敬老会で職員と一緒に踊った時の花笠を飾るなど、思い出や家族との絆を大切にしている事業所の配慮が窺える。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1階・2階でユニットが分かれているが、その方の能力に応じて、ホーム内の移動の規制はしていない。その時々々の理解を確認しながら、出来る限り自立した生活が送れるように努めている。		